

図書紹介

『まやかしの教育』

三条市の小中一貫教育と小中一体校

発行・三条市の教育を良くする会

2015年10月15日に発売になり、第1刷がすでに売り切れになっている。本の出版に関してのホームページもあり、動画でも経過、問題点などの解説がされている。「まやかし」というきつい表現ではあるが、読んでみるとまさに最近のマンシヨンの杭偽装事件が思い起こされる。「安心して買ったのにまさかこんなことになるうとは」。今や三条の中心校の三条小学校が裏館小学校に吸収され、なくなろうとしている。この12月議会で決まるそうだ。賛成17% 反対66% 市民の声を無視しては自治が成り立たないのではないか。小牧市では図書館を「SUTAYA」から取り戻そうと頑張っている。

三条市では、歴史と伝統のある地域に根差した四日町小学校、条南小学校、南小学校が消え、日本一のマ

ンモス小中一体校が建設された。しかし、開校2年目にして、早くも設計・施工ミスが露呈し、児童生徒の生命の安全と教育を受ける権利が侵害される事態が起きている。この学校でどのような教育実践が行われ、子どもたちの学びや成長にどのような成果や課題があるのか検証しないまま、国定市長は小規模校を強引に統廃合し、全中学校区を小中一貫校にすると豪語しています。国定市長とその権力に追従するだけの三条市教育委員会は、まやかしにまやかしを重ねて、三条市の教育を破壊していった。「私たちの三条市をつくる市民の会」や「小中一体校の問題を考える会」等の市民団体は、国定市長が誕生し、小中一体校の建設を目論んだ当初から、現在に至る約10年もの長い年月にわたって、まっとうな三条市政と教育行政を願って闘い続けている。本書は、多くの市民の皆様から「三条市の小中一貫教育と一体校建設は市民の願いからではない。この『まやかし』を広く語り、残して欲しい」との強い要望を受け出版した。数年にわたって丹念に会議録や新聞記事などの情報を収集整理し、紆余曲折を経て出版にこぎつけたものである。

（文責 伊藤英世・所員）